



公益財団法人

日本学術協力財団

Newsletter of Japan Science Support Foundation

ISSUE 21, April 2018

Newsletter

平成 30 年度事業計画・収支予算

財団は3月19日、理事会及び評議員会を開催し、「平成30年度事業計画案」及び「平成30年度収支予算案」等を審議し、提案どおり議決・同意を得ました。その概要は次のとおりです。

平成 30 年度事業計画

1 経常的な法人運営

① 学術方法の収集調査及び情報発信・普及啓発

i 『学術の動向』の発行

総合学術情報誌『学術の動向』を発行し、日本学術会議関係者、財団賛助会員、大学、図書館、研究機関等に配布する。

『学術の動向』に掲載されている論文等については、JSTのアーカイブ事業（J-Stage）を通じて広く一般に公開する。

ii 『学術会議叢書』等の発行

学術及び学術研究の成果を社会一般に普及するため、日本学術会議が行った公開講演会や各種シンポジウム等の記録に加えて、当該学術テーマに関する最新の科学者の論考を盛り込んだ『学術会議叢書』等を発行する。

『学術会議叢書』については、本年度も、公益財団法人一ツ橋総合財団の助成により、全国の国公立図書館・大学附属図書館等に寄贈する。

② 学術連携推進事業

i 科学者連携事業

日本学術会議主催の講演会、シンポジウム等の事業に対する支援を行う。

ii 学協会に関する実態調査及び調査結果の情報発信

「データベース『学会名鑑』」については、日本学術会議及び科学技術振興機構と連携し運用を行っている。毎年、日本学術会議が行う協力学術研究団体の実態調査を基に、データの整備・公表を行っている。今後も、我が国学協会の実態を示す基本的データベースとして、内容の充実、利用の拡大に努める。

[略]

this issue

平成30年度事業計画・収支予算
学術会議叢書24について
新シリーズ「学協会の今」について
データベース「学会名鑑」について
公開講演会開催に対する支援

公益財団法人日本学術協力財団は、賛助会員と助成金・寄付金を拠出いただいた方々のご厚意により、運営されています。

— 編集・発行 —

公益財団法人
日本学術協力財団
〒107-0052

東京都港区赤坂4-9-3
TEL 03-3403-9788
FAX 03-5410-1822
URL <http://jssf86.org/>

2018年4月1日発行

平成30年度収支予算

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで) (単位：千円)

科 目	予算額	科 目	予算額
I 一般正味財産増減の部		2 経常外増減の部	
1 経常増減の部		(1) 経常外収益計	0
(1) 事業活動収入		(2) 経常外費用計	0
基本財産運用益	326	当期経常外増減額	0
受取会費	17,551	一般正味財産期末残高	9,289
事業収益	10,131	II 指定正味財産増減の部	
受取補助金等	1,500	指定正味財産期末残高	43,357
受取寄付金	3,500	III 正味財産期末残高	52,646
雑収益	52		
経常収益計	33,060		
(2) 経常費用			
事業費	25,223		
管理費	7,837		
経常費用計	33,060		
当期経常増減額	0		

③ 学協会運営支援

日本学術会議同友会、日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー等からの要請を受けて、運営事務の支援を行う。

2 事業運営及び法人財政の改革

[1] 事業運営の改革

① 「科学と社会」に関する発信の一層の強化

i 「科学と社会研究会」による議論の推進

「科学と社会研究会」において、科学と社会に関する議論を引き続き進める。

さらに、平成30年度においては、フロンティア的な研究課題に取り組む若手研究者支援の方策について検討する。

同研究会の議論の成果を『学術の動向—科学と社会をつなぐ』に随時掲載し、同誌による「科学と社会」に関する発信を強化する。

ii 『学術の動向—科学と社会をつなぐ』の改革推進

『学術の動向』の新しい編集理念を一層具体化する上から、外部人材による誌面作り、英語発信の強化、電子媒体運用高度化等について検討を進める。並行して、同誌読者層の拡大を目指す。

② 学協会支援事業の充実・強化

多くの学協会は、小規模な事務局体制の下で法人ガバナンスは不十分であり、また、中規模以上の学協会も含めて、会員数の減少傾向を反映した厳しい財政事情から今後の法人運営に不安を抱えたままである。

また、社会に向けた活動状況も学協会により区々であり、これら活動に関する情報共有も不十分である。このような学協会に対し、学協会運営の現況、新しい動向等に関する情報を提供するとともに、法人運営の改善・改革を支援する事業を充実・強化する。このため、

i 『学術の動向』において、各学協会が抱える法人としての懸案・課題、社会に向けた活動状況等に関する情報共有の場として、新しい同誌企画「学協会の今—社会と向き合う」の連載を進めるとともに、

ii 日本学術会議第24期発足に伴い設置された同会議科学者委員会学協会連携分科会と連携して、学協会を支援する事業について検討・実施する。

[2] 財団財政の改革

上記 [1] の事業運営改革の取り組みに並行して、これを支える財団財政の改革として、平成30年度において、以下の諸課題に取り組む。

① 賛助会費増収対策

(日本学術会議会員・連携会員に対する賛助会員拡大策)

日本学術会議会員・連携会員に対する賛助会員拡大策を引き続き推進する。

(学協会に対する賛助会員拡大策)

学協会支援事業の推進に並行して、各学協会に賛助会員加入を要請する。

② 出版事業（『学術の動向』）増収対策

『学術の動向』有料購読拡大対策を集中的に実施する。



※お申込みは FAX にて
03-5410-1822

A5 判、272 頁
本体 1,800 円 + 税 (送料別)
賛助会員は割引価格
1,750 円 (送料込)

学術会議叢書 24

『〈いのち〉はいかに語りうるか?』の出版について

財団では、毎年、学術図書として『学術会議叢書』を発刊しています。平成 29 年度は、「〈いのち〉はいかに語りうるか?」と題し、発刊いたしました。

本書は、第 23 期日本学術会議哲学委員会いのちと心を考える分科会が平成 28 年 11 月 26 日に開催したシンポジウムの内容を基に、最新の考察を加え、構成されています。

この叢書につきましては、例年と同じく、公益財団法人一ツ橋総合財団から助成をいただき、全国約 1,500 か所の国公立図書館、大学図書館等に寄贈いたしました。

—目次—

「発刊に寄せて」山極壽一

「発刊に当たって」香川知晶

はじめに——〈いのち〉、人文知からのアプローチ 香川知晶

1 「遺伝子」概念・「細胞」概念のゆらぎと拡散 斎藤光

2 〈いのち〉はいかに理解されるか——科学的生命観と人生論的生命観 小松美彦

3 医学・医療領域におけるゲノム編集の倫理問題——人をつくりかえる技術は許容できるか? 島蘭 進

4 生命操作システムのなかの〈いのち〉——生の終わりをめぐる生命倫理問題を中心に 安藤泰至

5 〈いのち〉はいかに語りうるか——ハイデガー技術論の観点から 轟 孝夫

6 技術と欲望——ニーズに応えるという陥穽 大庭 健

付論 生命倫理の倫理性——学際領域と人文知の現在 香川知晶

(敬称略)

『学術の動向』新シリーズ 「学協会の今——社会と向き合う」 の連載開始

『学術の動向』4月号から新たに設けた「学協会のコーナー」の連載企画として「学協会の今——社会と向き合う」をお送りします。

現在、学協会が社会と向き合ってどのような活動を展開しているか、あるいは、組織・運営の問題も含めてどのような懸案や課題を抱えているか等について、今後、各学術分野の学協会に順次寄稿していただき、この連載シリーズを学協会問題に関する議論と情報共有の場に育てていきたいと考えております。

各学協会の御寄稿をよろしく願いいたします。

また、本連載企画への御意見等がありましたら、当財団事務局にお寄せください。

日本学術会議地区会議の 公開講演会開催に対する支援

財団は、日本学術会議の各地区会議が開催する下記の学術講演会について、開催に係る支援を行いました。

◎九州・沖縄地区会議主催

「海の利用と保全への新たな挑戦」

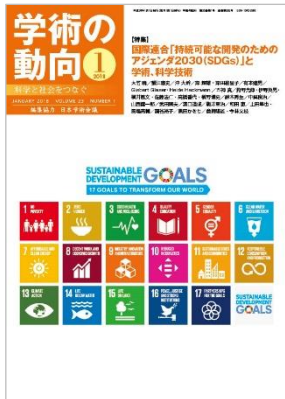
平成 30 年 3 月 1 日 (木) 於：長崎大学



出版物のご案内

※お申込みは FAX にて 03-5410-1822

学術の動向



A4判・本体価格 720 円＋税（送料込）
年間購読 8,230 円（税・送料込）
賛助会員は毎号 1 冊無料配布

- 18 年 1 月号 国際連合「持続可能な開発のためのアジェンダ 2030（SDGs）」と学術、科学技術
- 2 月号 中高生と考える「Future Earth と学校教育」
アジアの経済発展と立地・環境
—都市・農村関係の再構築を考える—
カズオ・イシグロのノーベル文学賞受賞と世界文学
- 3 月号 放射性物質の移動の計測と予測
—あのととき・いま・これからの安心・安全—
災害軽減と持続的社会的形成に向けた科学と社会の協働・協創

データベース学会名鑑—平成 29 年度調査について

財団は、平成 23 年 7 月より、学協会の活動を発信するとともに科学技術情報の効率的な流通を目的として、日本学術会議、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と連携してデータベース学会名鑑の運用を行っております。掲載学会は、日本学術会議協力学術研究団体を対象とし、毎年、日本学術会議が行う実態調査を基にデータを更新しております。

本サイトは、学協会関係の各種施策の企画・立案等、社会の多方面で活用されています。

現在、日本学術会議が平成 29 年度に「協力学術研究団体」を対象に行いました実態調査の結果を掲載しております。

各学術団体の関係者の皆様におかれましては、本事業にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

データベース学会名鑑 URL : <https://gakkai.jst.go.jp/gakkai>



公益財団法人日本学術協力財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-3

TEL 03-3403-9788

03-5410-0242

FAX 03-5410-1822

URL <http://jssf86.org/>

© 当財団の運営、ニュースレター等に関するご意見、ご要望がございましたら、当財団総務担当までお寄せください。

今後の参考にさせていただきます。皆様方のご意見、ご要望をお待ちしています。